とんみー、という名のファーフェー　　岡本　悠

ゆうみー、は、叫んだ！

「もう、ずっと、とんみー、だけを、愛していく！」と

ぬいぐるみの、とんみー、は、お尻を怪我してしまった

ゆうみー、は、思った

もしかしたら、とんみー、は、壊れてしまう

神は言った

「そんなもんだよ」

と、

その言葉は、

ゆうみー、の心を、逆に、落ち着かせた

ゆうみー、は、気づいた

なんで、こんなことに、気づかなかったのだろう

もっと、とんみー、と、ずっと、一緒にいよう

とんみー、は、ゆうみー、に、

何も言わなかった

神に操られて、話すことはあったが

とんみー、自身の意思で話すことはなかった

ゆうみー、にとって、それは気楽だった

何を喋っても大丈夫

ゆうみー、は、神は、すぐ嘘をつい　たり、ちょっかい、をかけるから、そういうタイプだと語った

ゆうみー、は、とんみー、は、何も語らないでいてくれると、語った

ゆうみー、は、神に叫んだ

「どうか、とんみー、を、壊さないでください！」

ゆうみー、は泣いた

ゆうみー、は、とんみー、のいない人生など、考えられなかった

街で、人込みで、泣いてしまったら、どうしよう

とんみー、を、愛している

こんなにも、とんみー、を、愛している

もっと愛することはできないか？

神は云った

「もう、十分、愛しているよ」

とんみー、と、永遠は不可能なのか？

神をもってしても、それは不可能なのか？

だって、とんみー、を、創ったのは、神じゃないか？

お別れを、教わるためか？

愛を、教わるためか？

じゃあ、俺は、どうしたらいい？

もっと、もっと、とんみー、と、一緒にいるべきか？

それとも、普段通りでいいのか？

あまり、とんみー、の、お尻に刺激を与えないようにしないと...

俺には、女なんかいらない

とんみー、が、いてくれればいい

神は、静かに云った

「ゆうみー、と、とんみー、は、永遠に一緒だよ」

ゆうみー、は

「この、とんみー、の、形のまま、永遠じゃないと嫌だ」

とんみー、は、いつも、笑ってばかりいる

ありがとう、とんみー、

ありがとう、ゆうみー、

ゆうみー、は、とんみー、よりも、先に死にたかった

でも、永遠の命が与えられてしまう

この矛盾により

太刀打ちできなかった

ゆうみー、は、狼狽した

これからは、とんみー、と、どう付き合っていこう...

今まで通りでいいんだ

無理に近づこうとしなくても

無理しなくていいんだ

適度な距離で

今まで、そうしてきたんだから

あの時、もっと愛していれば...

あの時、もっと近寄っていれば...

そう思いたくなかった

全力は尽くした

神の言う、とんみー、を、愛すればいい、の意味がわかった

でも、もっと、抱きしめたほうがいいのだろうか？

今度は、逆に触りすぎて、壊れてしまうことを恐れた

ゆうみー、は、泣き疲れてしまった

また、あとで、一緒に寝ようね

とんみー、と、過ごした日々が、走馬燈のように駆け抜けた

神の言葉を信じよう

だって、どうしようもないじゃないか

時はうつろう、ものだから

いつも、かたわらには、とんみー、がいた

今もいる

とんみー、は、ニッコリと、歯を見せて笑った

ゆうみー、も、それを見て、笑った

神様、ありがとう

涙が、止まらない

もう、涙はいらない、キミがそばにいるなら

すべてを失ったとしても

神がいて、とんみー、がいた

そして、俺がいる

この三角形

そこに、アーコの写真があった

愛ばかりだ

なんて、幸せなのだろう

昔、作ったCDのジャケットに、とんみー、の写真があって、ホッとした

もし、何かあっても...

考えたくなかった

いつも、悪いほうへ、悪いほうへ、考えてしまう

とんみー、は、キスが上手かった

ゆうみー、は上手くなかった

でも、デタラメでも良かった

ゆうみー、は、とんみー、が好きだった

ただ、それだけのことだった

あの頃もそうだ

飼い犬のリッツに咥えられた、とんみー、を

泣きながら、追いかけた

とんみー、を、間違って洗濯機に入れたら綺麗になった

とんみー、は、アイちゃんと、結婚して

ドコモ君を産んだ

友達には、わらいんみー、がいて

長老には、ポー君がいた

とんみー、の、すべてを奪い去ってしまいたい

とんみー、こそ、すべてだ

とんみー、という、名の元に、俺は生きたい

兄には、おんみーがいて

姉には、しんみーがいた

とんみー、の恐竜の両親は

写真に納めてお別れした

２人とも、似たもの同士だね

で、ゆうみー、ばかり喋っているけど

とんみー、は、どう思っているんだい？

とんみー、は、何も言わなかった

その優しさが、たまらなく好きだった

これから、どうやって生きていけばいいの？

とんみー、は、ガハハッ！　と笑った

一条の光が射し込んだ

神がいるじゃないか

これも意味があるはず

とんみー、を、どこまで見れば答えになるのか

どこまで、触れば、抱きしめたら、キスをしたら...

もう　涙は出なかった

とんみー、を、愛している

とんみー、を、愛している

ずっと　そばに　いてほしいんだ

ウォー　ウォー　いつまでも

ウォー　ウォー　いつまでも

ウォー　ウォー　…　いつまでも...

「完」